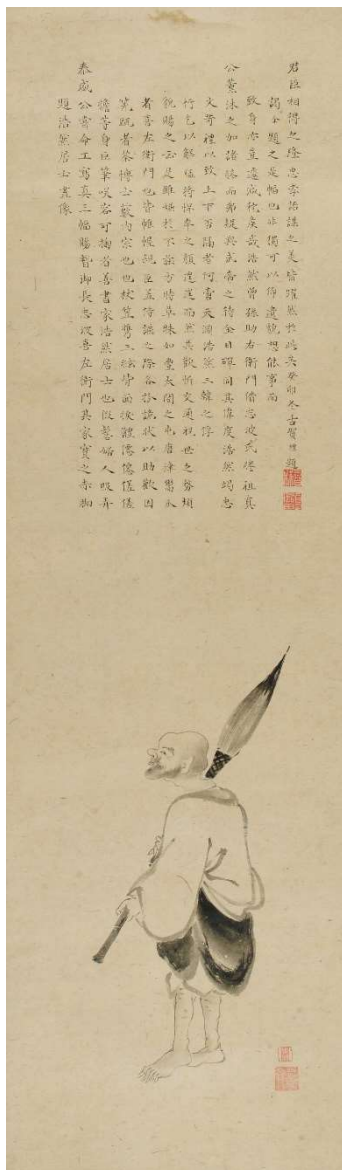


【参考資料1】 代表的な展示資料



洪浩然画像

当館蔵（洪悦郎氏寄贈）、佐賀県重要文化財

1783年頃、掛幅

洪浩然が捉えられた際の様子を後世に描いたもの。

賛は佐賀藩出身の儒学者・古賀精里による。



洪浩然使用の筆

当館蔵（洪悦郎氏寄贈）、佐賀県重要文化財

洪家に代々伝わった筆で、洪浩然が使用したもの。

洪浩然筆「勤謹」

公益財団法人鍋島報効会蔵

江戸時代前期、掛幅

「こぶ浩然」と称される洪浩然の特徴的な筆づかいがうかがえる楷書の作品。



紺紙白字詩書屏風
（写真は左隻）

公益財団法人鍋島報効会蔵

江戸時代前期、6曲屏風（1双）

洪浩然が行書体で漢詩を書いたもの。幕末期には、10代藩主・鍋島直正が設けた神野御茶屋（現：佐賀市神野公園一帯）で使用された記録が残る。

※展示期間（6月30日～7月30日）

【参考資料 2】名護屋城博物館と国立晋州博物館との主な協力実績

年度	名護屋城博物館	晋州博物館
		1984年 国立晋州博物館 開館
平成 5 (1993)	・名護屋城博物館 開館	
平成 6 (1994)	・倭城共同調査	・名護屋城博物館特別展へ出品協力
平成 7 (1995)	・倭城共同調査	
平成 8 (1996)	・倭城共同調査	
平成 9 (1997)	・常設展資料の貸出 (通年、28 点) ・晋州博物館特別展へ出品協力	・1998年1月リニューアル (壬辰・丁酉倭乱の専門博物館)
平成 10 (1998)	・学芸員交流派遣 (30 日) ・常設展資料の貸出 (通年、34 点)	・名護屋城博物館特別展へ出品協力
平成 11 (1999)	・学芸員交流派遣 (7 日)	・名護屋城博物館特別展へ出品協力 ・学芸員交流派遣 (60 日)
平成 12 (2000)	・学芸員交流派遣 (5 日) ・常設展資料の貸出 (通年、6 点)	・名護屋城博物館特別展へ出品協力 ・学芸員交流派遣 (7 日)
平成 13 (2001)	・常設展資料の貸出 (通年、9 点)	
平成 14 (2002)	・常設展資料の貸出 (通年、13 点)	
学術交流協定を締結 (2003. 2)		
平成 15 (2003)	・常設展資料の貸出 (通年、11 点)	・名護屋城博物館特別展へ出品協力
平成 16 (2004)	・常設展資料の貸出 (通年、48 点)	・常設展資料の貸出 (通年、31 点)
平成 17 (2005)	・常設展資料の貸出 (通年、59 点)	・常設展資料の貸出 (通年、46 点)
平成 19 (2007)		・名護屋城博物館特別展へ出品協力、 シンポジウム出席
学術交流協定を更新 (2008. 2)		
平成 22 (2010)	・晋州博物館特別展へ出品協力、講演会 出席	
平成 21～22 年度に洪浩然関係の共同調査を実施		
平成 23 (2011)	・名護屋城博物館『研究紀要』に共同 調査成果を掲載	
平成 24 (2012)	期限のない新たな学術交流協定を締結 (2013. 2)	
平成 28 (2016)	・倭城共同調査	
平成 29 (2017)	・晋州博物館特別展へ出品協力	
	・倭城共同調査	
平成 30 (2018)	・倭城共同調査	
令和元 (2019)	・晋州博物館特別展へ出品協力	
令和 2 (2020)	・晋州博物館特別展へ出品協力 ※新型コロナウイルス感染症の流行に より日本側機関からの借用取り止め	
令和 4 (2022)	・4年ぶりとなる訪韓調査を実施	